

1 日時：令和3年9月6日（月）13:00～15:00

2 場所：WEB開催

3 出席者

構成員 WEB参加：

群馬大学 小木津准教授、慶應義塾大学 川嶋名誉教授、筑波大学 齊藤助教（代理）・Jieun Lee 助教（アテンド）、東京農工大学 ポンサトーン教授、東北大学 鈴木教授、同志社大学 三好教授・田口教授・山本教授・佐藤教授、名古屋大学 森川教授、日本大学 栗谷川教授・石橋教授、明治大学 中山教授、横浜国立大学 有吉特任准教授、立命館大学 塩見准教授、法政大学 糸久准教授・今井教授、東京大学大学院 垣内教授、名古屋大学大学院 倉地特任准教授、中央大学 中村教授、早稲田大学 森本教授、大阪大学 山崎准教授、産業技術総合研究所北崎センター長、日本自動車研究所 内田副部長、交通安全環境研究所 河合部長、理化学研究所 中川チームリーダー、東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 大口教授・中野教授、内村特任研究員、長谷川特任研究員

対面参加：

東京大学 モビリティ・イノベーション連携研究機構 須田教授・鈴木准教授・霜野特任助教・梅田特任研究員

オブザーバー 内閣府 福島参事官、杉山氏

新エネルギー・産業技術総合開発機構 池田氏、舟橋氏

事務局 社会システム株式会社（東野氏、金子氏）

支援

4 議事概要

（1）須田機構長挨拶

（2）前回議事概要の確認

・資料1について説明。

（3）連絡会議委員について

・資料2について説明。

（4）参加委員からの話題提供

・資料3、4について説明。

（資料3 主な議事）

・自動車技術会の論文集に掲載された論文について、エンジンに関するトピックより自動運転に関するトピックが多くなってきている要因が、研究者がエンジンから自動運転に移ったのか、他の分野の研究者による投稿なのか分析できるとよい。

・今回の国内の自動運転研究動向は自技会の論文集のみでの分析であり、他分野の研究者については把握できない。引き続き情報や土木の分野の論文も含めた分析を行いたい。

- ・QA4AI・プロダクト品質保証ガイドラインでは、自動運転についても記載され、情報に係る内容も詳細に記してあるの
で参考にすると良い。

(資料 4 主な議事)

- ・スマートシティ等の設計において目指すべき方向性として、モビリティの対象物である人、モノ、情報の相互関係や有機
的な結びつきがわかるとよい。

(5) 自動走行ビジネス検討会次期プロジェクト（テーマ4）について

- ・資料 5 について説明

(主な議事)

- ・社会実装を議論する際は、多角的な検討とともに事業性という観点が重要である。多分野の委員と本会議で議論す
ることで価値のある活動ができると考えている。
- ・都市サービスデータとの連携を視野に入れたプラットフォームづくりの方向性についてアウトプットが出せると良い。
- ・ビジネスモデルとして、基盤のインフラは誰が整備するのかといった公共面の観点を含めた議論をして、政策への提言を
行うことも必要ではないか。
- ・情報通信の共通基盤として整備することで、交通以外の分野が投資する等のコストの分散を考えるとよいのではない
か。

(6) SIP 社会インパクト評価時期プロジェクトについて

- ・資料 6 について説明

(主な議事)

- ・昨年度作成した社会インパクトモデルを用いて、社会への自動運転のアピールにどう役立たせるかについて、本会議の
場でも議論したい。

(7) 連絡会議のホームページ開設について

- ・資料 7 について説明

(主な議事)

- ・指摘箇所の訂正と新規の組織会員について反映する。

(8) 国際連携に関する情報提供

- ・資料 8 について説明

(主な議事)

- ・10 月にドイツで開催予定の ITS 世界会議は現地参加のみであり、リモート参加はできない予定となっている。
- ・11 月開催の SIP-adus Workshop にて、インパクトアセスメントのブレイクアウトセッションを開催予定であり、別途案
内を出す予定。

(9) その他

- ・委員より自動車技術会のシンポジウム（9/14（火）9:45～15:45 オンライン）開催について案内があった。
- ・委員より RoAD to the L4 プロジェクトのシンポジウム（9/8（水）12:50～15:20 オンライン）開催について案内
があった。

- ・委員より東京都・自動運転社会を見据えた都市づくりのあり方検討会の紹介があった。
- ・委員より国土交通省・駅まちデザイン検討会の紹介があった。

(10) 今後の予定

- ・次回は 11 月～12 月頃を予定している。

以 上